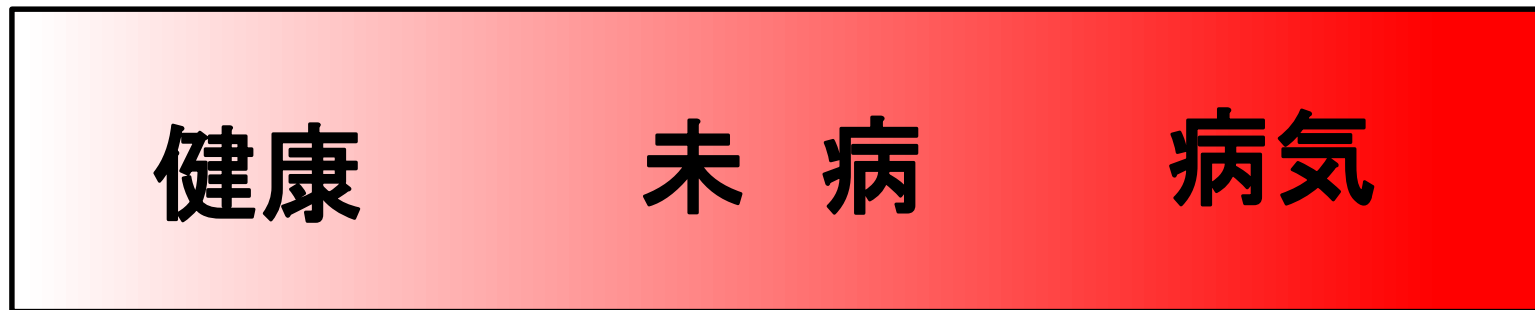
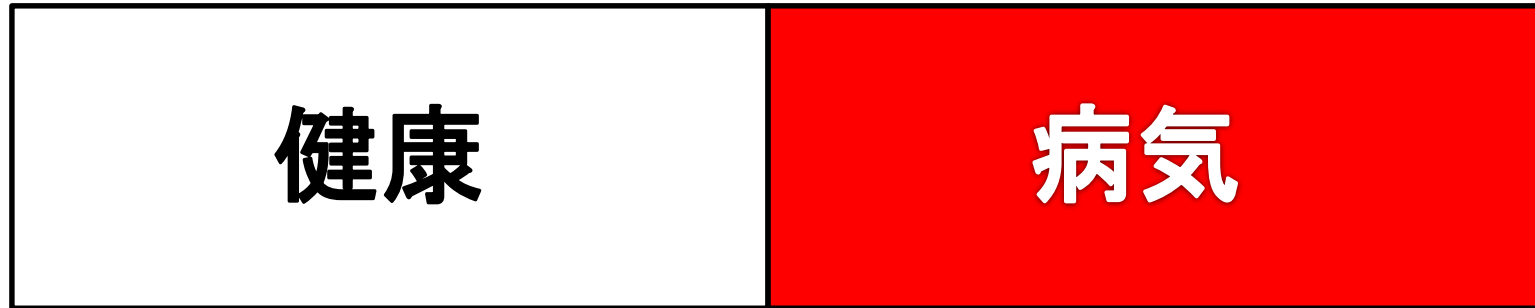


国家戦略特区における オープンイノベーション

神奈川県

ヘルスケア・ニューフロンティア、医療政策担当理事 首藤 健治

未病とは



未病・・・健康と病気を「二律背反」の概念で捉えるのではなく、心身の状態は健康と病気の間を連続的に変化するものとして捉え、この全ての変化の過程を表す概念が「未病」。

未病と予防の違い

	予防	未病
概念	<ul style="list-style-type: none">・ 特定の疾患を対象とする	<ul style="list-style-type: none">・ 特定の疾患予防にとどまらず、体全体の状態を最適化する概念・ 人の健康状態を体全体で捉える
状態	—	<ul style="list-style-type: none">・ 連続的に変化する体の状態を示す
行為	<ul style="list-style-type: none">・ 予防する → 特定の病気にならないようにする	<ul style="list-style-type: none">・ 未病を治す → 自身の状態を全体として最適化する

未病のパラダイムシフト

1) 個人（患者）本位の医療へ

- 日常生活に近いところでのパーソナルヘルスケア
- 個人による最適医療の選択

2) 体全体をとらえる

- 日々変化する体の状態を全体として捕捉する

未病産業とは

健やかに生きるための“価値”を創造 (老いる)

未病を治す

- 生体内の早期変化を捉える
- 伝統的東洋医学の“知”の活用
- 体全体を捉え、最適化する

生活機能を改善する

- ロボットの活用
- サルコペニア対策

生きがいの実現

- 生活を楽しむ
- 社会参加

脳（認知症）

健康情報プラットフォーム

個別化医療から最適化医療への展開

ゲノム

- ゲノム情報等に基づく個別化医療、予測・先制医療

体の状態に応じた最適化

- 日々変化する体全体を捉える新しい科学の必要性
⇒ 伝統的東洋医学に“知”あり

患者の選択

- 個人の意思・価値観等に基づく選択

個別化医療時代におけるレギュラトリーサイエンス

- 医療データの集積、活用
- DNA情報等の活用
- 科学論文等の活用
- 規制・承認プロセスの再構築
 - 国家とメーカーの関係
 - 国家とプロフェッショナルの関係

個人にとっての
最適医療の選択

知が外部化される時代におけるヘルスケアシステム

- 外部知とプロフェッショナル（法規制を含む）・責任論との関係
- 外部知を蓄積するためのコスト負担
- 外部知の評価のあり方

時間軸でとらえるヘルスケアシステム

未病を治す
コスト

価値

現在

将来

神奈川県取り組み①

最先端医療・
最新技術の追求

未病を治す

IT、レギュラトリーサイエンス、人材育成

ファンド

神奈川県取り組み②

1) 要素技術開発

- 医薬品、医療機器、再生・細胞医療等の開発

2) 社会システム、ヘルスケアシステム改革

- C H O (Chief Health Officer) 構想
- 健康情報プラットフォーム・神奈川マイカルテプロジェクト

3) コミュニティ・ソリューション

国家戦略特区

東京圏

神奈川県全域

東京都9区並びに千葉県成田市

全県特区のバックグラウンド

- 神奈川県はシリコンバレーの半分以下の面積
- 県内全市町村の賛意

全県特区の意義

- **2つの特区+県西部地域**の総合的・一体的活用
- 県民を対象とした社会システムモデルの構築

